

つながる力

《No.17》



沖縄・本部の土砂採取を許さない！



本部町安和鉱山全景 北上田毅さんブログ「チョイスさんの沖縄日記」より転載。 沖縄ドローンプロジェクト撮影

五月二三日〜二四日、
高松市で開催の予定であった
土砂全協第七回総会は
延期
します

美ら海水族館など沖縄の観光スポットに向かう国道近くに、「復帰」以前から操業の琉球セメント・安和鉱山があり、鉱業法に基づき石灰岩採掘が続けられている。そこでは赤土混じりの大量の「岩ズリ」が発生する。その岩ズリが18年12月から辺野古の海をつぶすために使われている。業者にとっての厄介物「岩ズリ」が、辺野古埋立て用の土砂として金に成るものに化けたのだ。写真のように沖縄の自然・景観を無残にも破壊して。

本部町島ぐるみ会議をはじめとした沖縄県民、全国からの支援者によって、一昨年12月から平日には毎日、土砂搬出阻止行動が続けられている。ぜひ皆さん、支援の手を！（2～3頁、本部からの報告、ご参照下さい）

《 目 次 》

琉球セメント・安和棧橋にて	阿波根美奈子	2
本部町・塩川港にて	北山睦子	3
辺野古カーヌー写真展 松山市で開催	保持雅子 阿部悦子	4～5
2月12日、総がかり行動実行委員会の防衛省交渉報告	湯浅一郎	6～7
こらむ 埋立土砂「全量県内調達」ではなく、やはり県外からも	北上田毅	7
暗中模索の連続…外来生物対策条例の制定求めて	八記久美子	8
重大な局面を迎えた辺野古新基地阻止の闘い	北上田毅	9
生駒研二さんの死を悼む	松本宣崇 海秀道	10
《沖縄からの便り・その11》 異例づくめの辺野古住民訴訟	浦島悦子	11
インフォメーション 辺野古土砂全協第七回総会は延期します		12

写真提供 阿波根美奈子 北山睦子 鈴木公子 阿部悦子 北上田毅 毛利孝雄 松本宣崇



琉球セメント・安和^{あわ}棧橋にて

本部町島ぐるみ会議 阿波根美奈子



防衛省は新基地建設に使用する埋立土砂の全量を県内調達する可能性を言い出しました。このことは、これまでの土砂全協の取り組みで県外からの土砂搬入が難しいことを認めたことだと思います。焦点は絞られてきました。今後とも更なる連帯で新基地建設を断念させましょう！

昨年土砂投入1年目の埋立量がたったの1%余りと報じられた後、焦った安倍政権は塩川・安和棧橋からの土砂搬出を加速させる手段をとってきています。安和棧橋では昨年12月24日より、左折で入るダンプが出始めました。今まで右折車線に20台30台が並び、信号毎に1,2台しか入れなかったのですが、約半数(30~50台)が名護市内を迂回し左折でも入ることで阻止行動もやりやすくなり、台数も増えました。1月からは、ストックから船に積込む構内のダンプが交代制を取り、昼休みなしで作業が続く様になりました。

さらに、3月からは週2回ほど17時過ぎにシュワブから機動隊の交代要員を来させて20時まで残業させます。日曜祭日以外は1日約12時間アウトドアですが、他団体と有志の協力で、安和での監視・抗議行動が続いています。

週3でセメント出荷船が使っていた旧棧橋の使用期限が今月で切れます。3月21日、始めてセメント出荷船が新棧橋に着岸していました。4月からはどのような展開になるのか。

毎日抗議に駆けつけてくれる人、バスで遠くから来て半日牛歩を続ける団体の方々、冷たい海に出て行く辺野古ブルーの皆さん、神経を使うゴーゴードライブに参加される方、新基地建設に抵抗する全ての人々の熱意に日々励まされています。



鈴木公子さんFaceBook 配信 2020.3.25 付「辺野古高江新聞」より



「辺野古ぶるー」カヌーチームは毎日、辺野古・大浦・安和棧橋で阻止行動を展開しています。

写真は3月25日安和棧橋での阻止行動の様子。

安和棧橋では連日、本部町島ぐるみ会議の皆さんを中心に陸でも土砂搬出阻止行動が続けられています。

辺野古ぶるーの中心的メンバーの一人、鈴木公子さんがFBに配信する「辺野古高江新聞」をぜひご覧になって下さい。
(編集部 松本宣崇)

本部町・塩川港にて



本部町島ぐるみ会議 北山睦子

2019年12月、沖縄防衛局は第3回技術検討会で辺野古新基地建設の埋め立て土砂を全量県内で調達する可能性を示した。土砂条例制定時の2015年には自民党の照屋守之氏が県議会特別委員会で、「埋め立ての土砂は石材も含めて沖縄県内で調達できると思っています。またできるという事業者もいます」と発言している。現在岩ズリ単価は5370円/m³で3年前の1870円/m³の3倍弱となっている。業者の利益は800億円超という試算だ。しかもこの岩ズリは額面通りではない。買値もつかないような赤土が多く含まれる代物なのだ。琉球セメントは赤土問題で行政の指導を受けながら改善していない。環境への配慮なしには社会的信用は得られない。



写真は現在置きっ放しになっているベルトコンベヤー

県内調達説が出てからの塩川港の状況は1日トラック400台分の土砂を船2隻半搬出している。時には土曜日にも作業を行い加速傾向にある。日頃チェックを担っているTさんは観察力が鋭い。3月下旬より全トラックの表示を再確認すると、今までより1台あたり0.5トン増しの6.5トンとなっていた。そればかりではない。塩川港の港湾施設用地内にベルトコンベヤーを設置する申請が出されたのが判明したのである。

新基地建設に反対する市民は「不許可にするよう」県に要請するも、県側は「港湾法に則り適切

に対応していく」と基準を満たせば許可する方針だ。既に港湾内には許可なく設置されたベルトコンベヤーがある。塩川港の杜撰な管理は以前から指摘していた。特定の業者が勝手なことをするとする悪質な行為が見逃されている。県は港湾法では不公平な取扱いを禁じていると強調するが、問題のある業者には毅然と対応するべきだ。これは塩川港の岸壁使用許可申請についても言える。港湾管理条例施行規則が定める様式の通り、毎回着岸のたびに提出させなければならない。

本部町は従来月単位で岸壁使用許可を出していたが昨年12月から最長6ヶ月間の許可を出し始めた。搬送船23隻に許可を出したが、12月の1ヶ月間で実際に岸壁を使用した船は4隻(29回)に過ぎなかった。早急に予算と人員をつけ法令を遵守させるべきだ。業者に主導権を握らせてはいけない。

工期短縮のためあらゆる手段が使われたなら無秩序な自然破壊を生むだろう。限りある資源、山(鉱山)でも海(砂)でも総量規制をかけることは必要である。それは未来の人々に対する申し訳にしかないが。

ご紹介します 編集部 松本宣崇



十数年前から、JR大阪駅前毎週土曜日午後3時半から一時間余り、雨の日にも風の日も「**辺野古新基地NO!**」のキャンペーンを続けている「**STOP! 辺野古新基地建設! 大阪アクション**」の皆さん

辺野古カメラ写真展、松山市で開催



松山ギャラリーリーブアートで、自身やドローンで撮られた写真に囲まれ、海保の暴力的な映像も流しながら、鈴木公子さんが辺野古ぶるーカメラチームの闘いを語ってくださった。

主催は「愛媛～沖縄・ゆいまーる」。



0.3馬力(つまり人力)のカメラが、エンジン2機を積んだ180馬力の海保のボートと非暴力で闘う。支援船がサポートしても敵うわけがないが、少しでも工事を遅らせるための海での直接行動。

深さ90mの軟弱地盤が確認され、活断層も近くを走る。貴重なサンゴも生息し、移植したサンゴはほぼ死滅した。岩ズリで埋め立てると言っていたのに大量の赤土が運ばれている。嘘とでたらめだらけのアベ政権。閣議決定は戦後最高の420件。都合の悪いことは国会で決めない。

辺野古への移設と言うが、滑走路は普天間の半分の1800mしか作ることができない。なので「普天間基地を使い続けるかもしれない」と元防衛大臣の稲田朋美は言った。また、投入した土砂量は

今現在、全体の1.1%。このペースでいくと、あと60年にかかるそうだ。環境対策にと汚濁防止幕が敷設されているが、カーテンの長さは7mしかなく、汚濁は防止できない。1.1%の土砂でも多くの生物がすでに死に、その100%が生き返らない。

カメラチームは、栈橋として使われている護岸への離着岸を遅らせ、安和では栈橋にロープを結び付けて阻止行動を行なっている。海保はその一部始終をビデオに録り、ロープをほどくか、ほどけなければハサミで切断する。そんな警備や道具にも私たちの税金が使われている。

出来上がったり使われたりする見込みのない基地を作る利権のために、私たちの多額の税金が使われ、多くの生物の命が奪われている。知ったからには黙ってはいけぬ。知ることは力を得ること。知ることで連帯できる。沖縄に行けなくても、それが私たちの非暴力・直接行動。早速今治チームでも写真展を開く段取りが始まった！！

(寄稿 今治市在住 保持雅子さん)

鈴木公子さんは2日間、3回の講演で会場をいっぱいになり、翌々日には上関原発の反対運動を続ける祝島の公民館で講演され連帯を誓われました。



伝える 辺野古の実情

松山 自然や住民の写真80点 1/24



辺野古・大浦湾の埋め立てに反対する「辺野古ブルー」の活動などを伝える写真展—23日正午ごろ、松山市湊町4丁目のギャラリー・リア・アート

米軍基地の移設を目的に政府が埋め立て工事を進める沖縄県名護市の辺野古・大浦湾をテーマにした写真展が23日、松山市湊町4丁目のギャラリー・リア・アート

トで始まった。現地の自然や工事中止を訴える住民の活動を約80点で伝えている。入場無料。27日まで。約30年間、基地問題などに取り組み「愛媛〜沖縄・

ゆいまーる」などが移設反対のカヌーチーム「辺野古ブルー」の取り組みを知ってもらおうと企画した。

会場には工事の状況やカヌーでの抗議活動、ウミガメの産卵場所を示した埋め立て予定地の空撮などを展示。サンゴ礁やマングローブ林などの自然が工事で失われる危険も訴えている。

ゆいまーるの阿部悦子事務局長(70)は「埋め立てられたのは1・1%で今なら引き返せる。埋め立ては未来世代への罪で、愛媛の人にも関心を持ってほしい」と呼び掛けている。

25、26の両日午後5時〜6時半と26日午後1時半〜3時の計3回、辺野古ブルーの中心メンバー鈴木公子さんの講演(有料)もある。(杉本賢司)

2020. 1. 24 愛媛新聞 「松山市で開催された辺野古カヌー写真展」を報道

辺野古新基地に反対し、辺野古・大浦湾で抗議行動を続けているカヌーチーム「辺野古ブルー」。「愛媛〜沖縄・ゆいまーる」などが、その取り組みを知ってもらおうと、愛媛県松山市で写真展(1月23~27日)と、中心メンバーの一人・鈴木公子さんを招いての講演(1月25・26日)を開催しました。

鈴木さんご自身が撮影された映像を使っの臨場感あられる講演は、参加者に辺野古の闘いの冷静な分析に基づく熱い思いがじっくりと伝わりました。

全国各地で写真展や講演が開催されることを期待します。(文・阿部悦子)

2020.1.30

地軸

エメラルドグリーンのに、水しぶきを上げて砕石が投入される。スクリーンに映し出されたのは、米軍基地の移設に向けて埋め立て工事が進む沖縄県名護市辺野古の海。現地でカヌーに乗り、阻止行動を続けている鈴木公子さんの講演を松山市で聞いた▲埋め立て地を囲う護岸が大量の砕石で形づくられ、その上に巨大なブロックがクレーンで積み上げられていく。映像はカヌーの目線から、工事の進捗をつぶさに記録している▲土砂の投入は開始から1年余りがたった。土で覆われる面積が少しずつ広がり、約6・3分の区域は昨年11月末時点で約7割が埋まった。別の区域でも土砂投入が始まっている▲鈴木さんは「死んだ生物は戻ってこない」と淡々と語る。保全のため移植した、絶滅の恐れがあるオキナワハマサングは9群体のうち3群体が死滅した。防衛省は移植との関連を否定するが、政府が今後予定する軟弱地盤の改良工事でさらに被害が出る懸念がある▲沖縄で繰り返し示された「辺野古ノー」の民意を顧みず、強硬な手段で工事を進めてきた政府。「民主主義を踏みにじり、地方自治を破壊する行為」という玉城デニー知事の言葉の重みをどう受け止めているのか▲「工事を一分一秒でも遅らせたい」と、個人の意思で行動する鈴木さんは、弁当持参で1日7〜8時間カヌーに乗るといふ。辺野古の海で続く権力への抵抗に、本土からも目を凝らさなければ。

2020. 1. 30 愛媛・地軸 (鈴木公子さんの講演を伝える1面のコラム)

生物多様性国家戦略の推進は防衛省の任務だ

— 2020. 2. 12 防衛省交渉報告 —

辺野古土砂全協顧問 湯浅一郎



2020年2月12日、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会による「防衛省要請・公開質問&院内集会」が参議院議員会館で行われた。

19年12月25日、防衛省が行った辺野古新基地建設の埋め立て工事に関する第3回技術検討会で、大浦湾の軟弱地盤問題に対処するために不可欠となる設計変更申請の中身が公開された後、初の本格的な交渉である。90分の交渉は、事前に出してあった質問へのひとつおりの回答の後、質疑をした。質問状の作成や当日の質疑の中心を、我が辺野古土砂全協顧問の北上田氏が務め、私も一部、質問したので、いくつかの論点につき報告する。

**1. 鉄鋼スラグは使用しないが、
岩ズリの県外調達ゼロは明言せず**

防衛省は、土砂全協の関心事である「岩ズリの全量を沖縄県内から調達し、県外からはゼロになる」のか否かについて、「現時点では、具体的な調達先は確定していない」と答えるだけであった。防衛省は、全量を沖縄県内から調達は可能とする一方で、岩ズリで鹿児島県、熊本県、長崎県、佐賀県、海砂では山口県で可能な搬出量の調査をしていることを含め、警戒せねばならない。一方で、鉄鋼スラグの使用は当面は含まれていないと明言した。

**2. 水深90mまで軟弱地盤の
海域への対応が不十分のまま**

大浦湾側のB27地点で「物理試験からとはいえ水深90mまで軟弱地盤である」ことを示すデータが国会に提出された資料に含まれている問題に関して、ボーリング調査などさらに詳細な調査を何故しなかったのかと何度も迫ったが、これへの回答は最後までなかった。仮に90mまで軟弱地盤であった場合、現在の工法では、せいぜい70m深までしか対応できないため、対処不能となりかねないとの問題が残ったままである。

**3. 外周護岸ができる前の膨大な
先行盛り土で懸濁物質の拡散が懸念される**

これまで防衛局は、外周護岸を造成してから中に土砂を入れるので汚濁はないとしてきた。しかし、今回の計画は「一番外側のケーソン護岸ができる前に、工期を短縮するために水深7mまで先行盛り土する」としている。先行盛り土の土量はいくらかも示さない。

トレミー船で海底から先行盛り土をしても、土砂自体が投入後沈降する性質があるから問題ないとしている。工事による水の濁りは、「シュミレーションによりトレミー船により先行埋立をしたとしても濁り拡散はこれまで示してきた環境保全図書と概ね同程度、ないしそれ以下に収まることを確認している」と答えるだけであった。潮流や台風のみき上げによる土砂流出などが懸念される。

**4. サンゴ移植問題からは「生物多様性」など
無視していいと。防衛省の本音が見えた**

サンゴの移植は、埋め立てより先に進めるのではなく、「工事の進捗状況を踏まえて適切な時期に

移植する」とし、埋立工事を進めながら、同時並行で進めるとした。サンゴ移植を本気で行う意志がないことがうかがえる。第3回技術検討会の資料ではサンゴ移植の工程については何もふれられていない。

また移植が成功したか否かの判定について「明確な基準がない」とし、「何らかの定められた基準、例えば移植した何年後にどうなっていなければならない、というようなものが設けられているものではない」と答えた。



生物多様性国家戦略については、「防衛省としては、関係法令等に基づいて自然環境にも配慮しながら」、「生物多様性国家戦略というものも踏まえて適切に対応していきたい」というだけであっ

た。「踏まえるではなく、守り推進する立場に立ちますと明確に言うべきだ」と指摘したところ、防衛省は「工事の担当で、直接、生物多様性国家戦略を担当しているものではないので…。踏まえて適切に対応していきたい」と繰り返すだけであった。これは、本音が漏れたショッキングな回答であった。防衛省の埋め立て事業を推進している担当者としては、「生物多様性国家戦略を推進していく」と言うつもりもないし、良く解釈すれば、そのようなことはおこがましくて言えないということなのかもしれない。

いずれにせよ、政府は、工期を短くすることを至上命題として、設計変更書を作成する方針であると考えられる。軟弱地盤問題が持ち上がり、本来は事業を中止すべき事態であるが、遅れつつも近く設計変更申請がなされることが予想される。政府が、国費を投入して「未来への犯罪」をあえて進めようとするのを、政府は、あくまでも生物多様性国家戦略を推進する立場にあるはずだということを追及し続けることで、食い止めていかねばならない。



こらむ

埋立土砂「全量県内調達」ではなく、やはり 県外からも

辺野古土砂全協顧問 北上田 毅

昨年12月末の技術検討会に示された変更計画では、「(埋立土砂・海砂は)必要量を県内から調達することが可能」とされた。これを受けて「埋立土砂、全量を県内調達」という報道が相次いでいる。

しかしその技術検討会の資料には、九州4県で岩ズリの調達可能量を調査した右のような表が添付されている。特に鹿児島県からは、沖縄の2倍以上の岩ズリ調達が可能という。

設計概要変更申請と同時に提出される土砂の供給に関する図書でその詳細が分かるだろうが、やはり県外からも土砂が運ばれる可能性が高いと思われる。

県名	年間可能出荷量
沖縄県	4,916,943
鹿児島県	10,223,000
熊本県	900,000
長崎県	860,000
佐賀県	50,000
県外計	12,033,000
合計	16,949,943

表：岩ズリ調達可能量調査結果 (m³/年)
(第3回技術検討会資料 P120)

暗中模索の連続…外来生物対策条例の制定求めて

「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会 八記久美子

■末田さんを講師に学習会

土砂全協の運動方針を受けて、辺野古土砂北九州では昨年の総会で、「福岡県・北九州市に対し外来生物対策条例の制定を求める」ことを運動方針の一つとしました。

具体化の一步として、昨年12月に、顧問の末田一秀さんに来ていただき、世話人を中心とした学習会を開催しました。末田さんからは「条例を作ろうと思うのなら、会の名前は出さず、環境団体と一緒に」というアドバイスをいただきました。その時は、「そうやね」とみんなでうなずきました。

■どうする、どうしよう…

末田学習会を受けてどう行動するか、世話人会では様々な論議が行われました。

「末田さんが言った通り、他の環境団体と一緒に請願し、条例を作らせる方がいいのでは」「各県に外来生物に対応する条例を作ることは、閣議決定されている。私たちの思いを前面に出して否決されても、そこから道が開けるのではないか」という二つの意見が出されました。私個人としては、「行動を共にしてくれる環境団体を探すことは、非常に困難。県への働き掛けがいつになるかわからない」という思いがありました。論議の結果、出来上がった請願は、私たちの思いを正面から伝えるものでした。

■民主県政県議団の渡辺県議が

県議会への請願書を作った後、私たちは、紹介議員のお願いで各会派を回りました。その中で、民主県政県議団の渡辺美穂県議から、「この問題を一般質問でとり上げたい」と、声がかかりました。まさに「行動すれば道が開ける」です。私たちは請願の提出を取りやめ、この課題を渡辺県議に託すことにしました。

渡辺県議は、「福岡県の希少種保護に関する条例の制定」を求めるなかで、外来生物対策を抜きに、条例の制定はあり得ないとの立場で質問してくれました。

福岡県ではこの条例制定が全国的に遅くなっていることから、「遅くなった以上、いいものを作りたいという思いがある」そうです。県の方はしばらく様子見となりました。

■環境団体めぐり

次に私たちが行ったのは、環境団体巡りです。環境団体が、独自で「外来生物対策条例の制定」を求めてくれれば、これに越した事はありません。

これまで歴史のある二つの団体を訪問しましたが、外来生物対策条例についての行動は「重たいね」「難しいですね」という返事でした。しかし、外来生物に対して深い認識を持たれていて、いろいろと教えていただきました。

■頭を整理しつつ前に

私たちは今、県の様子を見守りつつ、政令指定都市である北九州市議会に向けて、請願を出す準備中です。

今世話人会では、多くの人の共感を得るために「生物多様性の保全という立場」を、前面に出すことが必要との意見が上がっています。これから、市にどんな条例があり、その内容がどんなものなのか、市議会へのアプローチをどうするのか等、基本的な所から頭を整理していかなければなりません。道は遠いけれど、学習と行動で、じっくり前に進みたいと思っています。





重要な局面を迎えた 辺野古新基地阻止の闘い

--- 今回の最高裁判決とまもなく提出される設計概要変更申請について ---

辺野古土砂全協顧問 北上田 毅 (沖縄)

●防衛局はこの4月にも、沖縄県に対して、軟弱地盤の地盤改良工事とそれに伴う護岸・埋立工事の設計概要変更申請を提出する準備を進めている。しかし最近になって、防衛局が実施した大浦湾の軟弱地盤に関する地質調査について多くの疑問点が明らかになった。専門家グループは、このままの設計では護岸が崩壊するとまで指摘している。

(注) 防衛局が計画している変更計画の概要と問題点、地質調査の疑問点などについては、「沖縄を世界軍縮の居点に一辺野古を止める構想力」(岩波ブックレット、2020年3月)、『世界』2020年5月号(岩波書店)所収の拙稿を参照されたい。

防衛局が多くの疑問に答えられないまま、設計概要変更申請を提出することは認められない。防衛局は地質調査をやり直し、正確なデータに基づき設計を見直さなければならない。県は、申請が提出されても突き返し、地質調査のやり直しを指示すべきである。

●本年3月26日、県の埋立承認撤回(2018年8月)を国が行政不服審査法を濫用して取り消したことに對し県が提訴した関与取消訴訟の最高裁判決が出た。最高裁は国の「私人なりすまし」を認め、県が敗訴。この判決は県の承認撤回や国交相が撤回を取消した裁決の適否を判断したものではないが、今後、国はこの最高裁判決を盾に全面的な攻勢を強めるだろう。

特に問題となるのは、この最高裁判決によって、国と地方自治体が対等という地方自治法の原則が完全に破壊されてしまったことである。今後、知事が設計概要変更申請を不許可とした場合でも、同じように行政不服審査法を使って簡単に覆すことが可能になってしまった。それを不服として裁判を起すこともできない。

県は辺野古新基地建設阻止に向けた戦略を根本的に再検討する必要がある。

継続中の抗告訴訟の勝訴に向けて全力をあげなければならないが、同時に、裁判以外の対抗策を模索

し、県が持つあらゆる権限を行使して事業を止める努力をするべきであろう。

●まず、問題となるのはサンゴ類の移植に向けた特別採捕許可申請への対応である。

大浦湾の埋立予定地には78,460群体もの移植対象のサンゴ類がある。地盤改良工事着手前に移植するためには沖縄県に特別採捕許可を申請し、知事の許可を受けなければならない。

防衛局は昨春、約4万群体のサンゴ類の移植のための特別採捕許可申請を県に提出した。しかし県は、埋立承認撤回をめぐる裁判が決着するまで判断しないという対応を続けてきた。そのため、防衛局はサンゴ類の移植に着手できない。これに對し農林水産大臣が本年2月、「許可をせよ」という「是正指示」を出して露骨に介入してきたのだ。

今回の最高裁判決を受けて県の判断が注目される。県は、国地方係争処理委員会に申し立てたが、少なくとも抗告訴訟の決着までは「判断保留」を続けるべきであろう。

また、今後提出される設計概要変更申請を知事が許可しない場合、工事は頓挫し、サンゴ類を移植する必要はなくなる。設計概要変更申請の扱いが決着するまで、特別採捕許可の判断はできないはずである。

●昨秋から、本部塩川港、琉球セメント安和棧橋からの土砂海上搬送が加速している。県は現在、十分な対抗策を講じていないが、県が現行条例・規則を厳格に適用し、規制を強化することは可能はずだ。

また、海砂採取の規制、県土保全条例の改正、土砂条例の改正、そして埋立土砂を搬出している鉾山に対する県の規制等、県が持つ権限を毅然と行使すれば、まだ辺野古新基地建設を止めることができる。

いよいよ正念場である。「あらゆる手段で辺野古新基地建設を止める」と言ってきた玉城県政の真価が問われている。

いこまけんじ 生駒研二さん (辺野古土砂全協共同代表) の死を悼む

辺野古土砂全協事務局長 松本 宣崇



生駒研二さんが1月16日午前7時5分に死去、68歳という若さでの最期でした。葬儀が1月18日、天草市で執り行われ、お別れに参列しました。

会場に入るや真っ先に辺野古土砂全協共同代表の弔電の紹介、一瞬驚きました。

御所浦まちづくり協議会の花里さん、最後は熊本県連絡会共同代表・海秀道さんなど5名が弔辞を述べました。異口同音、生駒さんの天草を愛する思い、そして辺野古に土砂を持ち出させない強い思いを偲べ、生駒さんの余りにも早い旅立ちに無念の思いを語られました。

喪主・京子さんによると、昨年11月体調が急に悪化し入退院を繰り返し、正月明けには面会謝絶となり会話は電話だけだったそうです。その間、生駒さんご本人は長くはないと覚悟し「終活」を進め、弔辞も直接本人が5名にお願いしたと聞きました。

生駒さんは生前、御所浦島の土砂の辺野古搬出計画に立ち向かい、人脈を生かして「熊本県連絡会」の立上げに心血を注ぎ、昨年5月の全協第6回総会では共同代表に就任しました。しかし闘いはまだ道半ば、心残りの旅立ちだったと思います。そのご遺志は、辺野古土砂全協に参加するみんなで引き継ぎたいと思います。

ご冥福をお祈りいたします。 合掌

弔 辞

真宗大谷派東光寺住職 海 秀道 (熊本県連絡会共同代表)

皆様の手厚い看護や治療の甲斐もなく逝去。まことに痛恨のきわみです。

1月11日午後5時46分、君は私の携帯へ電話をくれた。元気なころの君は、「海さん、生駒です」と大きな声で電話してきた。その日の君の声は、心なしか小さかった。「メッセージをお願いします」と。

生駒研二君、今、私は君にお別れとお礼そしてお願いの「弔辞」を読もうとしています。私たちは偉大なまとめ役、リーダーを失って途方に暮れています。君とは「地球市民講座」「あまくさ九条の会」「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」等々と長い付き合いでした。君は優れた先見の明と努力とで、中心人物として多大な期待をかけられていた。君は高等学校教員として赴任した先々で、その土地の問題を見極め、人々と交流を深めていった。その行動力と人脈づくりには驚くばかりです。

「地球市民講座」を立ち上げるとき、君は“腰骨をしっかりと立てて、しかし肩の力は抜いて、明るい笑顔で軽いステップ”をキャッチフレーズにしていましたね。この腰骨をしっかりと立てて、しかし肩の力は抜いて、これこそお経きょうを読む基本姿勢です。「胡坐あぐら」をかいていては、お経の声は出ません。問題を抱えた現状に甘んじて「胡坐」をかいていては、何も変わりません。今日の情勢を鑑みる時、反省ばかりです。君からのキャッチフレーズを、私は「“バラバラでいっしょー差異をみとめる世界の発見ー”」と、自分なりにいただきなおして座右の銘ざいゆうめいとしています。

また君の沖縄への関心・造詣の深さそしてその行動力には頭が下がります。憲法九条、沖縄辺野古米軍基地新建設問題等々。最近では沖縄親鸞塾の彫刻家・金城実さんや読谷の真宗僧侶・知花昌一君ら、沖縄の念仏者とも昵懇の間柄になったようですね。

君との別れは辛くて悲しいが、君は仏様に成った。地獄・餓鬼・畜生の無い、戦争・貧困・差別の無いアミダの浄土へ還り、諸仏とならせていただいた。そして再び浄土の光を携えて君は仏様のハタラキを尽くすために、問題山積の娑婆へわれらを浄土へ導く諸仏(先生)として誕生したのだ。昨晚のお通夜で仏様のハタラキをした君の姿を拙い短歌にしてみた。「亡き朋友は体解説法お通夜で 生老病死愛別離苦“を”と。この娑婆世界で仏様のハタラキをする君との再会を楽しみにしています。

南無阿弥陀仏、合掌

佛曆二五六三年(西曆二〇二〇年)一月一八日

沖縄からの便り
《連載 No.11》
いちやりば
ちよーで

異例づくめの 辺野古住民抗告訴訟

ヘリ基地いらない二見以北十区の会 浦島悦子



3月18日、「明日の判決期日が取り消された」との連絡に、耳を疑った。私たち辺野古・大浦湾沿岸住民15人が原告となって、沖

縄県による埋立承認撤回を取消した国土交通大臣の「裁決」は違法だと、裁決の取消しと執行停止（裁決の効力の停止）を求めた住民抗告訴訟の判決が翌19日に那覇地裁で言い渡される予定だったからだ。

判決期日は3か月前の結審時に決定しており、2日前（16日）に裁判所から出廷予定者の確認も済んでいた中でのドタキャン。弁護士事務局が裁判所に理由を問い合わせたが「言えない」との返事。折からの新型コロナウイルスが理由ではなさそうだ。

実は16日、最高裁が、国交大臣の裁決を違法だとして沖縄県が地方自治法に基づき「関与取消し」を求めた訴訟の上告審判決を26日に言い渡すことを決定。17日の地元メディアは「県の敗訴が確定する見通し」と伝えていた。既に来上がっていたであろう地裁判決の内容に対し、最高裁から地裁の担当裁判官に対し何らかの圧力があつたのか？あるいは担当裁判官が最高裁判決を受けてから判決文を書き直そうと考えたのか？

原告団と弁護士は判決予定日だった19日、抗議の記者会見を行うことを決めた。ところが当日朝になって原告代理人・弁護士からまた連絡が入り、訴訟の一部、すなわち執行停止に関してのみ決定が出されたとのこと（開廷はなし。裁決取消しは別途、判決期日を決める）。これも異例だ。

決定の内容を見ると、原告15人中4人について原告適格を認めた上で、「重大な損害を避けるため裁決の効力を停止する緊急の必要性」はないと、執行停止の申し立てを却下している。埋め立て工事が進行し、日々破壊されていく海を見せつけられてい

る原告としては極めて遺憾であり、不当だ。

一方で、辺野古新基地建設に関して住民側が訴えたこれまでの訴訟はすべて「原告適格なし」の門前払いだったことからすれば、一部ではあれ原告適格を認めたことは画期的だと弁護士は評価した。これによって「入口」を突破し、実質審理（裁決の違法性の判断）への道が開けたからだ。また、「緊急の必要性がない」理由として「工事が著しく遅延し」

「早期に完了するとは到底見込まれないこと」を挙げ、軟弱地盤が存在していることが公知の事実となっており、これに伴う設計概要変更に沖縄県知事の承認を受ける必要があること、それに際して改めて環境影響評価が実施されるべきだと踏み込んだ。弁護団の1人は「まるで勝訴判決を読んでいるような錯覚を覚える」と苦笑した。

原告適格とされたのは、「埋立行為又は埋立地の用途により、著しい被害を直接的に受けるおそれのある」辺野古住民と、「高さ制限」に抵触する豊原住民で、私も含む二見以北（大浦湾沿岸）の住民は全員「原告適格なし」とされた。これには到底納得できない。仮に新基地が造られた場合、滑走路の延長線上にある私たちの地域の方が、辺野古周辺より騒音被害を受けることは明らかであるにもかかわらず、防衛省は一貫して、基地建設の地元は「久辺3区（辺野古・豊原・久志）」のみで、二見以北10区は地元ではない（「周辺地域」に過ぎない）と、私たちの要請をことごとく「門前払い」してきた。その意図がここにも貫かれているような気がする。

原告団&弁護団が記者会見を開いて発した「抗議声明」では、早期に取消し訴訟の判決を出すよう求めた。異例づくめの訴訟の行方を注視したい。

《 付記：3月31日、那覇地裁から延期されていた判決を4月13日（月）に言い渡すとの連絡があつた。 》



辺野古土砂全協 第7回総会は延期 します

辺野古土砂全協では、「つながる力」前号16号で予告し、5月23～24日、高松市で第7回総会の開催を予定していましたが、香川県連絡会の皆様には第7回総会開催の準備を進めて頂いてきました。

後手後手の新型コロナウイルス対策を棚に上げ、「緊急事態宣言」をちらつかせて「自粛」を叫ぶ安倍政権に遠慮するつもりはさらさらありません。しかし3月下旬以降、市中感染が急激に拡大し、収束が全く見通せず、拡大する可能性も否定できません。

このコロナ騒動の中で、沖縄では基地建設工事が進められているのは、許せません。また、6月沖縄県議選の対策のため菅官房長官が沖縄へ行ったと

は！ これこそ不要不急の外出！ そのものです。何よりも、コロナとともに基地建設も終息してほしいと願うばかりです。

最善の感染対策を図るのは当然としても、感染者が日々増えるなか、参加のため列車などでの長距離移動も含め全国から集まるのは危険性が伴います。このような事情を勘案し、共同代表・事務局・顧問そして香川県連絡会の皆さんと協議を重ね、断腸の思いで第7回総会開催の「延期」を決断しました。

総会期日については、新型コロナウイルス感染が終息した段階で役員会を開いて決定し、皆様にお知らせいたします。ご了承のほどをお願いします。



新型コロナウイルス感染拡大によっては、延期・中止も予想されます。事前にお問合せ下さい。

◆◆ 各地からの案内 ◆◆

環瀬戸内海会議第31回総会
7月4(土)～5日(日)
広島県東広島市安芸津町、大崎上島町

**交流集会 「瀬戸内海と生きる！
～今日まで、そして明日から～」**
時間 7月4日 13:30～16:30
場所 三津ふくい館 (旧福井善之宅)
東広島市安芸津町三津 4185-1

フィールドワーク 大崎上島炭火電反対運動現地
時間 7月5日 12:30～ 竹原港出発
連絡先 090-3638-0187 松本

岩波ブックレット No.1022

沖縄を世界軍縮の拠点に 辺野古を止める構想力

著者 豊下櫛彦 北上田毅 吉川秀樹 大城尚子
豊田祐基子 沖縄対外問題研究会

「軍拡の要石」を脱却し、人類、生命、将来世代を救う国連「軍縮アジェンダ」の旗を掲げよう
「軍拡こそ世界の脅威だ」というパラダイム転換を軸に、辺野古新基地を止めた先の未来を構想する

定価 本体620円＋税

辺野古土砂全協 HP

<http://stophenoko.html.xdomain.jp/>
「STOP! HENOKO 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」で検索して下さい。
そして、あなたのパソコンの「お気に入り」にご登録して下さい。

2020年度会費のお願い
2020年度団体・個人会費のお納めをお願いします。カンパ熱烈大歓迎！
— 郵便振替口座 —
番号 01750-8-144158
名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

《 辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース 》

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 阿部悦子 (環瀬戸内海会議) hibi_etsuko@yahoo.co.jp
大谷正穂 (山口のこえ) masaho1954@gmail.com

編集…松本 宣崇 (環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp
八記久美子 (門司の環境を考える会) kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

HP アドレス <http://stophenoko.html.xdomain.jp/>
連絡先…愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 Tel 090-3783-8332